

【児童発達支援事業 第三者調査実施の概要】

- 1) 利用者調査有効回答者割合 69.2%：配布数13世帯、回収数9世帯
職員有効回答者割合 100%：配布人数14名 回収14名
- 2) 評価スケジュール：
利用者調査の実施：2024年11月～12月 職員調査の実施：2024年11月～12月
- 3) 利用者調査 分析結果と今後の取組み
調査結果から良かった点を【強み】、改善すべき点を【弱み】として分析いたしました。

1 環境・体制整備

- 【強み】 生活空間は活動に合わせたスペース、また心地よく過ごせる環境になっている。
職員の配置数や専門性は適切である。
事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等の配慮が適切になっている。

* 今後に向けて

ご利用者が安全に安心して過ごすことが出来、また活動に取り組めるよう環境の改善と職員の育成に努めていきます。

2 適切な支援の提供

- 【強み】 ご利用者のご家族のニーズや課題が個別支援計画に反映され作成されている。
個別支援計画に沿った支援が行われ、活動内容が固定化しないように工夫されている。
- 【弱み】 他施設との交流や障害のない子供との関わる機会を設けていない。

* 今後に向けて

ご利用者の個別性に配慮した個別支援計画のさらなる充実を図り、活動内容に反映させていきます。そして、他施設・障害のない子供との交流の関してはご家族の要望等を確認しながら改善に努めていきます。

3 保護者への説明等

- 【強み】 ご家族に対して面談や助言等の支援が行われており、また個別支援計画示しながら、支援内容の説明が行われている。
ご利用者の状況をご家族と伝え合い、健康・発達状況について共通理解が出来ている。
個人情報の取り扱いに十分注意している。
- 【弱み】 定期的な会報やホームページ等で情報や業務に対する評価が伝わりにくい。
情報伝達の配慮が足りない。ご家族同士の連携の支援が十分になされていない。

* 今後に向けて

様々な情報の発信方法を検討していきます。また、ご家族の意見を聞きながら、保護者会の開催・内容を検討しご家族同士の連携支援につなげていきます。

4 非常時等の対応

- 【強み】 非常災害の発生に備え、定期的に必要な防災訓練が行われている。
感染症対策が徹底して行われている。
- 【弱み】 緊急時対応・防犯・感染症等のマニュアルと防犯カメラの設置の周知説明が徹底されていない。

* 今後に向けて

月1回の防災訓練（地震・火事・土砂崩れなど）は継続し職員の防災意識を高めていきます。
緊急時対応・防犯・感染症等のマニュアルの周知説明を、定期的に行う時期を決め毎年継続できる体制を整えます。

5 満足度

- 【強み】 ご利用者は通所を楽しみにしており、事業所の支援に満足している。
自主送迎のため、直接ご家族とコミュニケーションをとることで迷い事等を受けることが出来ている。

* 今後に向けて

ご家族の満足度に甘んじることなく、ご利用者の成長発達をご家族と共有共感できる支援に努めていきます。

- 4) 職員自己評価 分析結果と今後の取組み

- 【強み】** 活動プログラムはチームで立案し、固定化しないよう工夫しており、ご家族向けの評価結果、ご意向等を業務改善につなげている。
個別支援計画は、児童発達支援ガイドラインの項目が支援内容に適切に設定され、支援計画に沿った支援を行っている。
個人情報の取り扱いに十分注意している。
非常災害時に備え、定期的に訓練を実施している。
ご利用者のアレルギー対応を関係部署と連携しながら行っている。
- 【弱み】** 各設間において、「わからない」の回答が今年度は多くみられた。
特に関係機関やご家族との連携に関しては目立っていました。

* 今後に向けて

個別支援計画の作成・支援プログラムは、ご家族の要望・ご利用者の個別性を重視した立案を強化していきます。

新たな職員に対して、ご家族・ご利用者の多岐にわたる支援内容を伝えきれていない面が多々あり、「わからない」の回答が多くみられました。

職員間での情報伝達の強化を図る検討に努めていきます。

- 5) 実施機関 島田療育センター
6) 作成日 2025年3月21日